

[第2号議案] 平成21年度事業計画案及び収支予算案

平成21年度事業計画書 / 平成21年4月1日～平成22年3月31日

I. 方針

昨年12月からは、日本中の全ての社団・財団法人は公益法人改革によって暫定的に特例民法法人となりました。当協会も今後5年間の間に、公益社団法人あるいは一般社団法人を選択し、認定・認可を受けなければなりません。この社会的変化をむしろ我々の行く末を深く考える良い契機として積極的に捉え、今年度は、当協会の今後の展開への道筋を考える年にふさわしい事業計画を策定しました。

まず、社団法人認定・許可に向けて手続き業務を粛々と行いながら、これを契機に当協会の行く末を吟味する良い機会とする。そのためには、内外ともにコミュニケーションを良くし、外に対してはホームページの改良運営、内に対しては活動の即時周知を心がけるとともに会員からの意見聞き取りや、討論会を随時開催することで現時点での問題点の抽出や将来への希望期待を顕在化していく作業を進めます。

また、現在活性化している社会的事業はこの勢いを削ぐことなく活発な活動を続けます。公共マップや景観ガイドライン作成に関する業務、サイン素材の調査研究、介護支援ピクト導入へのコンサル、音サイン研究等活力ある事業活動を全国レベルで継続していきます。会員増強に関しては、活動が行われていない地区活性化に着手します。海外交流の事業枠を振替え、沖縄でのシンポジウムなどの開拓事業を行います。百年に一度といわれる経済不況の中、会員の減少は続いています。この様な時代だからこそ出来る改善改革を新役員体制で行っていきます。

II. 事業計画

1. 調査及び研究事業

(1) サイン音に関する調査研究 --- 調査研究委員会

・ITテクノロジーを駆使したニューサインメディア・デジタルサイネージはサイレントサインとして新領域を形成しつつある。公共空間に於ける新しいサイン音の領域をデジタルサイネージとのコラボレーションで次世代サインの情報提供、標準化を調査から開始する。

(2) 商業サインの調査研究 --- 調査研究委員会

・さまざまな事例調査/広告計画としてのサインデザイン調査。サインデザインの印象評価調査。
・デザイン手法に関する調査研究/文字サイズや色彩など基本要素に関する調査。

(3) サイン素材の調査研究 --- 調査研究委員会

継続的に調査研究を進めていたハンドブック素材編を出版する。関連するメーカーの一覧や特選素材、工法の紹介など地球環境へのローインパクトな素材なども取り上げたハンドブックとする。A4版/横開き120頁程度。

(4) 案内用図記号の開発 --- 調査研究委員会

「ひと目でわかるシンボルサイン標準案内用図記号ガイドブック」に掲載されたJIS規格の125アイテムの案内用図記号、社会のニーズに答える新アイテム開発に継続して取り組む。

(5) 福岡市公共マップの作成 --- 事業委員会

行政が提供するまちの地図のあり方を調査研究し、公共の案内地図に対するSDAとしての見解をまとめ社会に発表する。同時にその成果をもとに福岡市モデルの地図を開発し市全域の地図データマップを作成。福岡市ではこの地図を都市サインだけでなく公共施設や観光マップ、さらに他の交通事業者や商業事業者にも提供し、統一的な都市情報の発信をおこなう全5年計画の3年目に入ります。

2. 普及及び啓発事業

(1) SDA賞の実施 --- SDA賞委員会

第43回SDA賞として、2008年5月1日～2009年4月30日までの1年間に完成した作品を、広く一般から5部門8類にわけ募集して審査、各賞の発表ならびに贈賞をおこなう。

(2) SDA賞巡回展の開催 --- SDA賞委員会 + 地区幹事会

第43回SDA賞の入賞作品を、応募パネルを利用したSDA賞展として全国各地区(平成20年度は9地区)を巡回開催し、優れたサインデザインに関する情報を広く社会に発信する。

(3) 地区における普及活動 --- 地区幹事会

全国8地区それぞれの地区幹事会が、地区研究会、地区見学会、SDA賞展などの事業を計画・実施し、サインデザインに関する普及啓発活動をおこなう。

(4) 委員会連絡会議の開催 + (5) 地区連絡会議の開催 --- 事業担当理事 + 地区活動担当理事

サインデザインの普及啓発を目的として、事業系7委員会委員長、8地区の地区代表幹事ならびに総務委員会委員長を招集し9月と1月の年2回合同会議を開催する。全国の事業展開や全国の地区活動について協力、調整をおこなう。また地区活動の活性化策として他地区との共催の推進、講師幹旋などの支援強化を図る。引き続き総務委員会が主体となり全地区での会員増強策を推進する。

3. 情報収集及び提供事業

(1) 会報 NEW' S の発行

SDA の機関誌として、当年度事業の計画内容、実施状況および会員間のコミュニケーションツールとなる地域情報などが掲載される。

(2) インターネットの推進

今年度より、リニューアルされたニューホームページにて SDA の情報を発信。継続し HP の情報管理、新コンテンツの企画、運営、更新などをおこなう。また会員間の情報リリースのツールとしてメルマガの運営を併せておこなう。(3)SDA 賞作品集の発行 --- 出版委員会
第 43 回 SDA 賞の入賞作品すべての作品パネルデータ、審査経過ならびに審査評などの記録を目的とした「第 43 回 SDA 賞特集号」を発行する。

(4) 定期刊行物の発行 --- 専門誌委員会

本来的「サイン専門誌」の編纂に向けた情報収集にあたり「[SIGN-DESIGN] についての雑多討論会」開催を計画。SDA40 数年の歴史と先達の思考や実績を再編集し、新しい時代を見据えたサインデザインブックを考察する。

(5) 合同年鑑の刊行協力 --- 出版委員会

「年鑑日本の空間デザイン 2010 ディスプレイ・サイン・商環境」(六耀社刊行)の編集・刊行に協力する。この年鑑は 4 団体のデザインアワードを収録。当協会の「第 43 回 SDA 賞」、社団法人日本ディスプレイデザイン協会の「ディスプレイデザイン賞 2009」、社団法人日本ディスプレイ業団体連合会の「ディスプレイ産業賞 2009」、社団法人日本商環境設計家協会の「JCD デザインアワード 2009」を同時掲載する。

(6) 会員名簿の発行 --- 総務委員会

今回より総務委員会マターとなった隔年発刊の会員名簿を編集発行。

4. 研究会・セミナー等開催事業

(1) 地区研究会の開催 --- 地区幹事会

全国各地域でサインデザインの普及啓発を目的とした、様々のテーマの中から任意のテーマを設定し、各地区 4 回程度のサインデザインに関する研究会を開催する。なお各地区とも研究会のうち 1 回については、サインデザイン関連の施設の見学会を予定する。

(2) セミナー等の開催 --- 事業委員会

関連団体との合同事業の実施として、3 団体合同の「日本の空間デザイン 2010」パネル展とあわせデザインフォーラムをおこなう。またサインデザインのナレッジとスキルのアップを目指した、プロフェッショナル講座の開催に向け内容構成ならびに詳細をつめる。

5. 交流及び協力事業

(1) 国内関係機関との交流活動

他のデザイン団体、関係団体などと合同でデザインに関する共通のテーマを設定し、協力や協賛、後援などで行事を開催していく。

(2) 海外関係機関との交流活動

海外関係機関との交流と、サインデザインの調査ならびに研究を目的として、この数年は米国、中国、欧州などで視察旅行を実施する。本年度は国内において秋口、沖縄への視察旅行・シンポジウムならびに交流会を計画。

(3) 国内関係団体活動への参加

せんだいデザインウィーク(東北)、中部デザイン団体協議会(中部)、大阪デザイン団体協議会(関西)、広島デザインウィーク(中国)、福岡デザインリーグ(九州)、のデザイン関係団体と共通のテーマで活動し交流を深める。

(4) D-8 の協力事業

日本デザイン団体協議会(D-8)は、共に経済産業賞を所管にもつデザイン団体で JIDA(社)日本インダストリアルデザイナー協会、JID(社)日本インテリアデザイナー協会、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、JCDA(社)日本クラフトデザイン協会、JJDA(社)日本ジュエリーデザイナー協会、DDA(社)日本ディスプレイデザイン協会、JPDA(社)日本パッケージデザイン協会、SDA(社)日本サインデザイン協会の 8 団体で構成される。活発な活動として D-8 ジャパン・デザイン・ミュージアム設立に向けた委員会活動や、D-8 デザイン保護研究会活動などがある。

(5) 空間デザイン機構の協力事業

「年鑑日本の空間デザイン」として(株)六耀社の発刊に、編集・刊行を協力してきた 4 団体(社)日本ディスプレイデザイン協会、(社)日本ディスプレイ業団体連合会、(社)日本商環境設計家協会、(社)日本サインデザイン協会が、新たな組織、空間デザイン機構を立ち上げ年鑑の発刊協力をおこなう。昨年度は第 2 回空間デザイン賞を贈賞するに至り継続事業となる。